

世界トップブランドのレッカー装置

(株)ミラージャパン

(株)ミラージャパンは、米国ミラーインダストリーズ社(以下ミラー社)の日本総代理店として2006年4月に設立した。それまでは、(株)ヤナセ機械事業部が代理店であったが、当該事業の撤退に伴い機械事業部からスピンアウトした4人の創業メンバーで会社を設立し、事業を引き継ぐこととした。社名も会社ロゴもミラー社に似ているが、資本関係はなく、完全独立経営となっている。

レッカー車の起源は1916年まで遡る。米国でアーネスト・ホルムス氏が世界初のレッカー車「ホルムス485型」を製造。その後、ホルムス氏の孫が設立したセンチュリー社をはじめ、レッカーメーカーが乱立し、競争が厳しくなっていく。

1990年にウィリアム・ミラー氏が主要3社を経営統合し、ミラーインダストリーズトリングエキップメントを設立。以降、欧米でM&Aを繰り返し、先日モイタリアのメーカーを傘下に収めながら現在では12社のブランドのレッカーを取り扱う世界最大のレッカーメーカーとなっている。製造工場はアメリカに3拠点、イギリスとフランスに各1拠点を有し、世界各国に製品を供給している。



海外架装のコンプリートカー(9055XL)

四半世紀続く、信頼のレッカー

(株)ミラージャパンは、ミラー社の小型から超大型までのレッカー、ローテーター※、キャリアカー等、車を運ぶ装置を販売している。日本国内ではJAFが使う小型レッカー車に架装されている「Century211・212」が主力製品となっている。

JAFが求める強度や使い勝手の細かい点を(株)ミラージャパンが、米国のミラー社にフィードバックし、30年以上に亘り、改良改善を進め、ほぼ完成形の定番製品となっている。



技術・サービス課
アシスタント・マネージャー 梶村 朋希
技術・サービス課
鎌田 孝則

(株)ミラージャパンは世界の販売代理店の中でも、安定して高い販売数を誇り、2017、18年には小型レッカー部門で世界1位の販売実績を記録し、総合販売台数でも毎年TOP10以内に入っている。ミラー社も日本市場を重視し、(株)ミラージャパンからの日本市場向けの改善要望には誠実に応えている。

ロードサービスを支える

(株)ミラージャパンは、レッカー装置以外にも、横転したトラックを引き起こす「エアジャッキ」や、レッカー移動時にタイヤが回らない車に装着する「ドリー」等、ロードサービス向けの様々な製品を輸入販売し、ロードサービスの現場、整備工場などで役立つアイテムを多数取り揃えている。



エアジャッキ(米国Mat Jack社製)



ハイスピードドリー
(米国Collins社製)

レッカー装置についてはロードサービス事業者の方が知識が多いときもあり、ミラー社との連絡を密にした製品情報のアップデートも重要だ。

レッカー車の架装はレッカー装置の他にもロードサービス用の様々な装置を搭載し、市街地や山間部では装備する部品も異なり、一品一葉で架装が変わる。そのため1台約3か月の工期を要する小型レッカー車の架装には、(株)ミラージャパン技術部のフォローも大切な役割を担っている。

さらに、民間レッカー業者の不定期注文の架装の場合、納車まで2~3年待ちとなるケースもある。このような現状課題に対して、少人数体制ではあるものの、協力工場の増強を図る等、重要課題として精力的に注力している。

ミラー製レッカー車は警察や消防にも納入している。けん引免許不要で運行でき、特に資格を必要としないが、定期的に具体的な使用方法の講習会を行っている。社会に役立つレッカーをただ販売するだけでなく、ソフト面でも支え続けている。

※360°旋回できる大型クレーン搭載車両

(株)ミラージャパン 代表取締役 清水 勇

日本のモータリゼーションの一助を担い、人々の暮らしの安全と幸福に寄与してまいります。

【本社】〒105-0004 東京都港区新橋6-20-11
新橋IKビル6F Tel : 03-5405-2562
<https://www.millerjapan.com/>



私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

設計・加工・組立のトータルサプライヤー

(株)矢口製作所

(株)矢口製作所は1948年に東京都練馬区にて創業。大正時代から歯車切削を生業とし、法人設立を機に金属加工の請負業務から、加工した部品を自社で組み立て、ユニット化した製品を作り上げる体制を整えてきた。自社のユニット製品の品質向上のために専門の設計部門を創設し、顧客の要望に的確に応えられる製品作りを行ってきた。

エンジンから動力を得て駆動するギヤボックスやポンプ、ウィンチの製造を得意とし、船舶やオートバイ、農機等、様々な業種へ供給してきた。高度経済成長期に開発した車両向けのP.T.O*ユニットで自動車産業に本格参入する。現在はタンクローリ用ポンプ・消防車用真空ポンプや車両運搬用のウィンチ等を主力製品としている。

*Power Take Off: トランスミッションの力を他の動力に伝える装置

現在本社がある所沢工場には、作業従事者30名規模と思えないほど、加工機械が充実しており、旋盤機10台、マシニングセンタ7台をはじめ、歯車を作る「歯切り



60台の工作機械が並び工場内

加工]や、内部を削る「ブローチ加工」等、メインで使う機械が45台、特殊加工用15台の計60台が稼働し、鋳造や熱処理・メッキ等の表面処理以外は内製できる設備を持っている。

多品種少量生産のため、組立はほぼ手作業で行い、組み上げた製品の性能テスト・耐圧テストや-30℃の冷凍庫でのバルブ開閉テスト等、自社での検査環境も充実させている。

フレキシブルな製造ライン

(株)矢口製作所の製品は30~50個の小ロット生産が主流となる。車両用のポンプやギヤボックスは専用設計が多く、

「この車両のこの位置に取り付けたい」という要望に対し、車載するスペースに合わせて製品設計を行っている。

自社工場で一貫生産でき、設計開始から量産まで半年から一年で対応している。量産品の製造ラインの間に試作品を挟むことができるフレキシブルな製造ラインも小ロット生産の強みとなり、急ぎの案件にも対応できる製造体制となっている。

設計段階においても、現場の意見を取り入れて、加工し易い形状や、作り易さを重視している。

人手不足を背景に、最近ではタンクローリでの荷下ろしスピード

が求められているという。(株)矢口製作所のポンプは早いと評判で、給油所での作業時間を短縮し、全体の輸送量を向上させることに貢献している。

ユーザーから海外製のポンプを提示され、同じ大きさ・性能の製造を求められるケースもある。ポンプは構成部品が少なく、コストの削減は難しいが、(株)矢口製作所製のポンプとして可能な限り価格帯を合わせる設計を目指している。

図面が無い製品が持ち込まれた際には、3次元測定器を用いて図面化して、再設計する高い設計力を有している。

求められる多様な技術・知識と経験

多品種少量製品を、設計から製造・組立まで一貫生産しているため、設計部門の人間には、材料・設計・試作・テスト等で求められる知見が多い。3DCADを早期に導入し効率化を図るとともに、教育環境の充実にも取り組んでいる。

化石燃料用ポンプはEV化の進行で、燃料輸送が減少していく時代になるため、食品やケミカル用のポンプ開発にも力を入れている。

積み上げてきた設備と技術を駆使して、次なる製品作りへ挑戦していく。



ステンレスギヤボックス



技術部
藤島 修

代表取締役社長
川名 一嘉

技術部 品質管理課 主任
星野 智博

(株)矢口製作所 代表取締役社長 川名 一嘉

「設計・加工・組立」の一貫生産

〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘6-725-3

Tel: 04-2922-1321

<https://www.yaguchi-ss.co.jp/>

